

# Kameda

2026.3 No.290

DATA  
BOOK

2025

## 亀田メディカルセンターの理念

私たちは、全ての人々の幸福に貢献するために  
愛の心を持って常に最高水準の医療を提供し続けます

最も尊ぶこと：患者さまのためにすべてを優先して貢献すること

最も尊ぶ財産：職員全員とその間をつなぐ信頼と尊敬

最も尊ぶ精神：固定観念にとらわれないチャレンジ精神

## CONTENTS

亀田総合病院報  
No.290  
2026年3月号

### 3 巻頭言

### 4 数字で見る鉄蕉会

### 10 看護の目 働くナースの日々の景色から

### 12 Close Up News

### 15 2025年度 患者さま満足度調査結果

### 18 病院は誰かの仕事でできている

## 巻頭言

## データとともに歩む、これからの医療で

情報管理本部 本部長 小川 理

春の訪れとともに、今年も新しい仲間たちが鴨川の地に集ってくれました。毎年3月号の病院報は、鉄蕉会の1年を数字で振り返るデータ特集です。ページをめくると、職員数や外来患者数など、当院が歩んできた1年間の軌跡をご覧いただけるかと思えます。こうした膨大な情報の積み重ねこそが、当院への信頼の証ではないでしょうか。

しかし、私たち医療人が向き合うのは、こうした完結した数字だけではありません。「1」というデータの背後には、今日この瞬間に起きている言葉にならない溜息や不安が宿っているのです。診察室で交わされた何気ない一言、誰にも言えずに残した既往歴の一行。そうしたものが、静かに情報の奥に折り重なっています。

あらゆる現実が「0と1」の記号へと置き換えられていくデジタルの奔流の中で、私たちは今、生命の手触りや真実味が見えにくくなる危うさに直面しています。昨年2025年、私たちは「確かなもの」の輪郭がほどこけていく感覚を、日々のあちこちで目にしました。

医療の現場でもDX(デジタルトランスフォーメーション)化という強い風が吹き、効率は飛躍的に高まっています。私たちは時に、精巧な「器」を新しくさえすれば、中身も自ずと正しい形を成すと信じてしまうことがあります。しかし、その器に注ぎ込む私たちの手は、震えてはいないでしょうか。器の形を整えることに急ぐあまり、痛みや迷いの「気配」を取り落としてはいないでしょうか。手もとを見つめ直さぬままでは、どれほど優れた器を並べ

ても、本質的な乾きを癒やすことはできません。効率という物差しで測れるのは医療の「律動」や「解像度」までであり、心の震えまでは、数字で測りきることはできないのです。

診療情報は、患者さまが守り続けてきた孤独な時間そのものです。それが画面に整然と並んだ瞬間、私たちはつい「扱えるもの」だと錯覚してしまう。

ひとつの記録に触れるたび、見えない時間の体温をたしかめていたい。

その聖域を安易に消費してはならない。私たちは、単なるデータではなく、預けられた「心の一部」と向き合っています。

AIが「共感」さえ分かち合える2026年の今、私たち医療人の役割はどこにあるのでしょうか。それは、システムが示した正解をなぞることではありません。答えを手に、患者さまと共に悩み、沈黙の中で寄り添い続けること。テクノロジーによる効率化の真の価値は、私たちが人間にしか果たせない「温かな対話の時間」を、情報の奔流から取り戻すことにあります。

鉄蕉会で扱うデータ一点一点には、人生の物語が宿っています。静かな湖面に、私たちはどのような「さざなみ」を立てるべきでしょうか。私たちの振る舞いが静かな折りのように波紋となって広がり、訪れる方々の心に届くことを願っています。

システムが鮮やかな答えを提示する、その先で、あなたはどのような「温もり」を手渡ししていくのでしょうか。

# 数字で見る鉄蕉会

2025

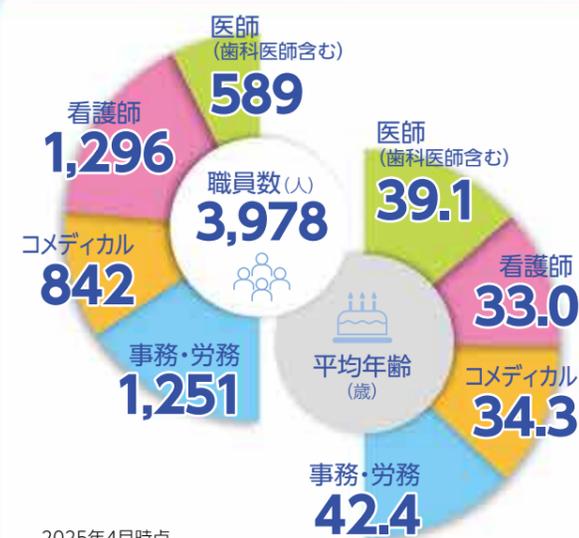
※データはすべて2025年1月1日～2025年12月31日まで

## 鉄蕉会DATA

### 事業所一覧



- 亀田総合病院
- 亀田クリニック
- 亀田リハビリテーション病院
- 亀田浜荻クリニック
- 亀田病児・病後児保育室かもがわ
- 亀田訪問看護センター
- 亀田総合病院在宅介護支援事業所
- 亀田スポーツ医学センター
- 亀田京橋クリニック
- 亀田京橋スポーツ医学センター
- 亀田総合病院附属 幕張クリニック
- 亀田 MTGクリニック
- 亀田森の里病院
- 亀田訪問看護ステーション森の里
- 亀田在宅介護支援事業所森の里
- 亀田ファミリークリニック館山
- 亀田病児・病後児保育室たてやま



2025年4月時点

### ドック受診者数 (件)

亀田クリニック	1日・1泊・VIPドック	8,678
	健診	13,940
幕張事業部	1日・1泊・VIPドック	23,871
	健診	8,755
亀田京橋クリニック	1日・1泊・VIPドック	12,134
	健診	1,742

常勤医師数  
**515**名

うち指導医数  
**109**名

うち専門医数  
**227**名

うち専攻医数  
**130**名

うち初期研修医数  
**48**名

※亀田総合病院 + 亀田クリニック合計、2026年1月時点

英語論文数  
**115** 論文

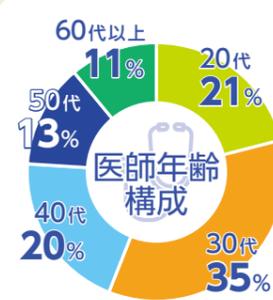
※診療部以外からの発表も含まれます

※英語論文のうち、PubMedに掲載されたものを対象とした。2025年1月1日から12月31日に発表された論文を集計しており、オンライン先行公開段階で巻・ページ等の書誌情報が未確定のものを含む。コメント、訂正 (erratum)、論説 (editorial) は除外している。

日本語論文数  
**157** 論文

※診療部以外からの発表も含まれます

※医学中央雑誌 (医中誌) に掲載された論文を対象とした。2025年1月1日から12月31日に発表されたものを集計しており、会議録は除外している。



救命救急センター (件)

ウォークイン  
**18,880**

救急車  
**4,646**

ドクターヘリ  
**91**

手術件数 (件)

亀田総合病院  
**9,611**

亀田クリニック  
**4,166**

手術室以外での全身麻酔症例数  
**598** (件)

当院診療部では、35診療科が緊密に連携し、年間62万人超の外来患者と約30万人の入院患者に高度で安全な医療を提供しています。日本屈指の手術件数を誇り、その実績は年々増加しています。救急医療では近接医療圏にとどまらず県全域から患者を受け入れ、医師の年齢構成は全国平均と比べて若く、活力と柔軟性に富んだ診療体制のもと、研究・教育にも積極的に取り組んでいます。

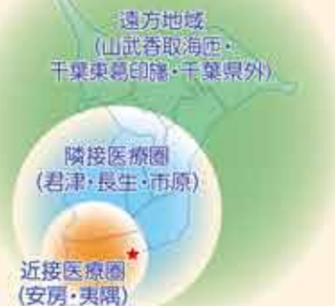


亀田総合病院 副院長 植田 健一

## 亀田クリニック+亀田総合病院



### 地域別患者数 (%)



平均在院日数 (亀田総合病院)

一般病床  
**11.0**日

歯科医師数 (常勤)  
**20**名

うち歯科研修医数  
**4**名

歯科衛生士数 (常勤)  
**33**名

歯科技工士数 (常勤)  
**13**名

※亀田総合病院 + 亀田クリニック合計、2026年1月時点

歯科受診患者数  
**73,682**人

障害者歯科診療数  
**404**件

訪問歯科診療数  
**1,390**件

ユニット数  
**32**台

- 日本口腔外科学会指導医 **4**名
- 日本睡眠歯科学会指導医 **1**名
- 日本顎顔面インプラント学会指導医 **2**名
- 日本口腔診断学会指導医 **1**名
- 日本有病者歯科医療学会指導医 **1**名
- 日本小児歯科学会指導医 **1**名
- 日本障害者歯科学会指導医 **1**名

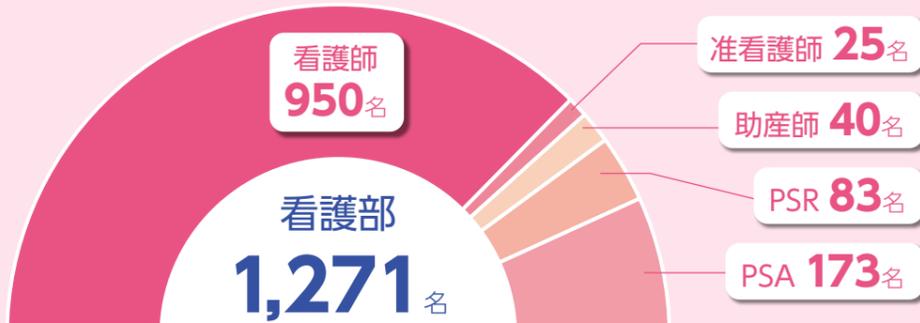
当院歯科センターは地域の基幹病院として、一般的な歯科治療の他に、入院を含む外科的歯科治療や障害者歯科、訪問歯科など各分野の専門医が1日約280名の外来患者さまの診療に当たっています。地域の過疎化や医療機関の減少といった環境下ではありますが、当センターは地域の皆様が安心して歯科医療を受けられる場であり続けるために、幅広いニーズに応えられるよう日々努めています。

歯科センター長 亀田秀次

# 数字で見る コメディカル



Nursing  
看護



※亀田総合病院・亀田クリニック・亀田リハビリテーション病院・亀田ファミリークリニック館山常勤及びパートを含む職員数。  
2026年1月1日現在

うち認定看護管理者 4名

うち専門看護師

急性・重症患者看護 1名  
がん看護 1名

うち特定行為看護師 61名  
(21区分/38行為)

2025年4月、亀田医療大学大学院にDNP(Doctor of Nursing Practice)コースが開講しました。このコースは、実践能力と研究能力を合わせもち、現場を変革していく能力を有した高度な実践家を育成するものです。院生たちはアメリカやカナダでNP(Nurse Practitioner)として活躍されている講師の方々よりオンライン講義を受け、意欲的に勉学に取り組んでいます。亀田総合病院が長年培った臨床と教育を両輪とした理念に基づき、グローバルな視点と地域医療への貢献を目指します。

看護管理部 部長 渡邊 八重子

うち認定看護師

皮膚・排泄ケア 4名  
訪問看護 2名  
救急看護 1名  
脳卒中リハビリテーション看護 1名  
認知症看護 1名  
糖尿病看護 1名  
がん化学療法看護 1名  
摂食嚥下障害看護 3名  
精神科看護 1名  
乳がん看護 1名  
緩和ケア 2名  
慢性心不全看護 1名  
新生児集中ケア 1名  
慢性呼吸器疾患看護 1名  
クリティカルケア 1名  
手術室看護 1名



ACSCスタッフ  
看護師 27名  
臨床工学技士 1名  
事務 1名

資格(重複あり)

診療看護師 8名  
認定看護師 3名  
周麻酔期看護師(修士) 2名  
看護師(院内認定) 11名(資格研修中:2名)  
周麻酔期臨床工学技士(院内資格) 1名  
特定行為研修修了者 22名(資格研修中:1名)  
フィジシャンアシスタント(院内資格) 5名  
理学療法士 1名

<活動診療科>

・循環器内科  
・腎臓高血圧内科  
・救命救急科  
・麻酔科  
・集中治療科  
・スポーツ医学科  
・在宅診療科  
・総合内科

ACSC(高度臨床専門職センター)は、医療現場におけるタスクシフティングとシェアの中核を担う部門として、2020年10月に設立されました。ACSCは、患者さま、ご家族、そして地域の皆さまに、質の高い医療を安全かつタイムリーに提供することを使命としています。それぞれが高度な専門知識と技術を活かしながら、診療部門のチームと深く連携し、患者さま一人ひとりに寄り添った医療を実現しています。柔軟な対応力と未来志向の姿勢で、医療現場に新たな価値を創造し、地域医療の未来とともに切り拓いていくことを目標としています。

高度臨床専門職センター センター長  
水上 奈緒美

高度臨床専門職センター  
Advanced Clinical Specialist Center:ACSC



リハビリテーション  
事業管理部

211名

※亀田総合病院・亀田クリニック・亀田リハビリテーション病院・関連事業所への出向者及び非常勤勤務を含む職員数  
(2026年1月1日現在)

理学療法士 151名  
作業療法士 24名  
言語聴覚士 16名  
歯科衛生士 2名  
トレーナー 6名  
事務員 12名

外来通院患者に対して幅広いリハビリ医療を

亀田クリニック

理学療法 2,167件 運動器疾患 67.9%  
作業療法 606件 脳血管疾患 17.2%  
言語聴覚 263件 呼吸器疾患 12.0%  
摂食 58件 心大血管疾患 1.1%  
処方数 3,094件 摂食機能療法 1.8%

入院早期から集中的なリハビリ医療を

亀田総合病院

理学療法 10,575件 運動器疾患 21.8%  
作業療法 1,153件 脳血管疾患 17.1%  
言語聴覚 381件 廃用症候群 14.2%  
摂食 2,466件 呼吸器疾患 15.3%  
早期離床 1,352件 心大血管疾患 7.3%  
処方数 15,927件 がん疾患 13.8%  
摂食機能療法 10.5%

リハビリ  
実施患者の  
在宅復帰率  
81.3%

社会復帰に向けて専門的なリハビリ医療を

亀田リハビリテーション病院

理学療法 282件 運動器疾患 36.1%  
作業療法 282件 脳血管疾患 54.7%  
言語聴覚 125件 廃用症候群 2.4%  
摂食 50件 摂食機能療法 6.8%  
処方数 739件

リハビリ  
実施患者の  
在宅復帰率  
88%

リハビリテーション部門では、病気や怪我によって生じる「歩く・食べる・話す・排泄する」といった日常生活の障害を改善し、スムーズな社会復帰をサポートしています。特に高齢化が進む現代では、複数の疾患を抱えることで活動量が低下しがちです。そのため、当部門では入院後早期から、科学的根拠に基づいた専門性の高いリハビリテーションを提供し、早期回復を目指しています。

リハビリテーション事業管理部 部長 村永 信吾

リハビリテーション  
Rehabilitation





臨床検査管理部

105名

※亀田総合病院・亀田クリニック  
常勤及びパートを含む職員数。  
2026年1月1日現在

臨床検査技師	90名
胚培養士	4名
看護師	2名
ラボテクニシャン	4名
事務員	3名
遺伝カウンセラー	2名

【稼働状況(のべ患者数)】

採血患者数	179,087人
診療支援チーム (MPST)(静脈路確保・鼻咽腔検体採取)	4,306件

【稼働状況(のべ検体数)】

一般検査	143,764件	遺伝子検査	1,738件	ART採卵件数	189件
生化学・免疫検査	672,676件	輸血検査	45,119件	遺伝カウンセリング	340件
血液・凝固検査	421,870件	病理検査	41,823件		
感染症検査	47,034件	生理機能検査	60,626件		

先進医療を実践する医療機関の臨床検査部門として、スタッフが一丸となって高精度・高品質の臨床検査、わが国の医療機関をリードするタスクシフティング・タスクシェアリングへの取り組み、最新の臨床検査技術の導入と開発・研究、それらを支える医療経済管理への挑戦に邁進し、常に20年先を想像して行動しています。



臨床検査管理部 部長 大塚 喜人

臨床心理室

臨床心理士	3名
面接件数	2,957件

画像診断室

診療放射線技師	64名
臨床検査技師	1名
准看護師	1名
医学物理士	1名
事務	10名
X線撮影件数	
病院	147,161件
CL	105,647件

内視鏡検査室

看護師	9名
准看護師	4名
臨床工学技士	1名
臨床検査技師	2名
内視鏡技師	4名
事務職	10名
内視鏡検査件数	25,132件

ME室

臨床工学技士	50名
事務	2名
補助者	1名
管理登録医療機器	13,559台
循環器症対応数	7,765件
血液浄化数	33,883件

栄養管理室

管理栄養士	16名
栄養士	2名
調理師	15名
調理補助	10名
年間食数	685,719食

超音波検査室

臨床検査技師	21名
准看護師	8名
超音波検査数	36,753件
生理機能検査数	98,685件

眼科技術室

視能訓練士	6名
検査補助員	1名
コンタクトスタッフ	1名
検査件数	84,365件

義肢装具室

義肢装具士	3名
装具処方	928件

医療技術部スタッフは総勢246名です。各職種はスペシャリスト集団で構成されており、治療に必要な検査データや治療に必要な専門技術を提供しています。常に最新の情報と技術を提供する事を心がけています。



医療技術管理部 部長 高倉 照彦



薬剤師 100名

薬剤テクニシャン 70名

事務 6名

看護師 3名

臨床検査技師 1名

外来処方せん枚数 287,458枚

入院処方せん枚数 172,303枚

入院注射処方せん枚数 319,886枚

TPN 調製本数 3,100本

抗がん剤混合調製本数 22,824本

薬剤管理指導件数 9,310件

麻薬管理指導件数 272件

炎症免疫外来件数 約 5,000件

術前外来件数 4,754件

周術期薬剤管理加算件数 6,881件

服薬フォローアップ (CL) 約 250件

服薬フォローアップ (C棟) 約 24件

退院時薬剤情報管理指導料 927件

退院時薬剤情報連携加算 27件

これまで調剤や服薬指導の直接的実績のみを可視化してきましたが、現在はチーム医療の中での薬剤師の間接的実績の可視化にも取り組んでいます。また、医療DX推進の中でのオンライン服薬指導や外来診療への関わりについてもデータ化を実施しています。

薬剤管理部 部長 舟越 亮寛



専門薬剤師資格取得者  
<https://www.kameda.com/pr/pharmacy/certifications.html>

2025年  
主な出来事



July 7月

亀田総合病院附属幕張クリニック  
渡邊義敬院長が就任



ACGME-I 総合内科・麻酔科がプログラム認証へ

December 12月

全事業所でISO7101を取得



亀田クリニック  
亀田リハビリテーション病院  
亀田ファミリークリニック館山  
亀田森の里病院  
亀田総合病院附属幕張クリニック  
亀田MTGクリニック  
亀田京橋クリニック  
亀田京橋スポーツ医学センター

April 4月

亀田森の里病院 亀田奈々院長が就任



May 5月

国際事業本部発足

August 8月

亀田IVFクリニック幕張 独立へ



September 9月

亀田総合病院ISO7101を取得  
医療機関向け品質マネジメント規格では国内初の認証



入院支援相談窓口をKタワー1階に設置  
デジタルPFMを用いたよりスムーズな入院のサポートを  
※詳しくはP18「病院は誰かの仕事でできている」のコーナーへ

# 看護の目

## 強い不安を持つ 患者さまとの関わり



看護部 小坂恵子

患者さま(以下〇氏)は49歳女性、急性白血病を発症し、寛解導入療法(抗がん剤治療)目的のため入院となりました。治療開始後、抗がん剤治療による発熱性好中球減少症で敗血症性ショックとなり、集中治療室へ移動となりました。集中治療室では、気道分泌物が多く、気管内挿管が長期となったことから気管切開による呼吸ケアを行いました。また、麻痺性イレウス<sup>せんこう</sup>状結腸穿孔<sup>せんこう</sup>を起こし、消化管ストーマを増設するなどし、長期臥床<sup>がしよう</sup><sup>\*1</sup>による影響でADL<sup>\*2</sup>は寝たきりとなりました。

その後、全身ケアを行いながら、抗がん剤治療ができる程度に回復したことから、追加で地固め療法を行った後も敗血症ショックを起こし、幾度も集中治療室での管理となることがありました。白血病自体は寛解状態<sup>かんかい</sup><sup>\*3</sup>となったものの、治療の副作用で抹消神経障害を来し、下肢のしびれや尿閉<sup>\*4</sup>となり膀胱留置カテーテルを挿入するなど、順調な回復とはなりませんでした。

〇氏は、度重なる全身状態悪化や順調に回復しないことで、さまざまな不安を抱えていました。徐々に易怒性<sup>いどせい</sup><sup>\*5</sup>、感情失禁、幼児退行などがみられ、重度の睡眠障害となり、夜間は5分おきにナースコールで「さみしい」「側にいて」「辛いよ、どうかして」と繰り返し訴えました。そこで、〇氏と関わる時間をつくり、ベッドサイドで本人の訴えを聴き、少しでも安心感を与えられるようタッチングなどの対応を試みました。

しかし、日を追うごとに〇氏の易怒性は強くな

り、すぐに対応ができないと、大声で叫んだり、暴言を吐くようになりました。〇氏が身体的な苦痛のみならず、大きな不安や恐怖、絶望感がある状態にいると理解はしていましたが、私も他の看護師も疲弊し、徐々に避けるようになっていきました。

自分は看護師としての役割を果たせていないのではないかと悩んでいた頃、緩和ケアチームが介入することになりました。〇氏の状況や看護師が抱く思いを共有し、リハビリスタッフや緩和ケアチームのメンバーなど、なるべく多職種で〇氏に寄り添うようにしました。さらに、環境を変えることで気分転換ができるよう、離床の時間を増やしていきました。また、ご家族を交えて多職種によるケアカンファレンスを行い、〇氏に対する思いを語っていただきました。ご家族は〇氏の現状を見ていることは辛い。何かしてあげたいが、何もできないことに無力感を感じていることなどがわかりました。そこで、ご家族がケアに参加できるよう調整したり、〇氏自身が心配しているお子さんとの面会回数を増やすなどしました。また、睡眠薬を最大限調整し、徐々にではありますが夜間も睡眠がとれるようになっていきました。

しばらくし、易怒性は徐々に減少し、穏やかに過ごすことが多くなりました。リハビリも少しずつ進み、特に嚥下機能<sup>えんげ</sup>は軟らかい食事が摂れるまで回復したことを受け、〇氏の誕生日が近いことから、お好きだというチョコレートケーキを

## 看護体験の内容を受けて



看護部(A8)師長 渡邊律子

がんを抱える患者さまは、死を強く意識する瞬間が幾度とあり、人生の途上でブレーキをかけられるような経験や、疾患・治療への期待と失望、その中での難しい意思決定など、様々な思いを抱え療養生活を送っています。揺れながらも精一杯生きることを支援していくために、医療者は、どのように関わるができるだろうか、どうあるべきかと模索し葛藤を抱えることがあります。

患者さま、ご家族、医療者それぞれが様々な問題や課題に直面しています。緩和ケアチームとの連携は、患者さまやその周囲の方々への支援の充実に繋がります。

ケアのあり方について、より深く考え、それが最善のケアに繋がられるよう病棟スタッフとともに努めていきたいと思っています。

をご用意いただき、ご家族と一緒にお祝いをしました。〇氏はケーキを味わい、笑顔を浮かべていました。その後、360日の長期入院を経て、ご自宅に近い施設に転院となりました。

白石(2024)は、「病状悪化で、その先にある死や今までの自分でいられなくなる恐怖や苦痛に直面することを避けようとし、防御規制やコーピング<sup>\*6</sup>をするが、つらい状態が長引くことで、いつまでも現実に直面できず心理的苦痛がましっていく」と述べています。〇氏は、想像以上に辛い現実に直面し、さらに長期化したことで防御規制やコーピングしきれなかったと推察します。また白石は、「看護師だけでなく、他職種チームで関わることで、多角的にその人を捉える機会になります。患者に関わる際にいい距離で関われないと医療者自身が苦しくなります。医療者と患者の距離が適切であれば、チームで情報整理、患者へ適切なサポートを考えることができ、またそれぞれの気持ちを共有できる」と述べています。チームで協力し、多職種で寄り添えたことは、〇氏の孤独感と強い不安の軽減ができた

だけでなく、関わる医療者側にも気持ちの余裕が生まれ、適切なサポートができるようになったのではないかと考えます。

患者さまにより良いケアを提供するために、緩和ケアチームなどの専門職にサポートを求めることは重要だということ。それは患者さまやご家族とともに最善のケアを考えることにつながり、苦しい状況と一緒に乗り越えるスタッフ同士の気持ちをひとつにする事の大切さを学ぶことができました。

### 【用語説明】

- (※1) 長期臥床：一日中ベッド上で安静にすること
- (※2) ADL：日常生活動作
- (※3) 寛解状態：一時的に良くなり、症状が抑えられていること
- (※4) 尿閉：尿が体外に排泄されないこと
- (※5) 易怒性：過剰に怒りやすいこと
- (※6) コーピング：対処すること

引用文献：白石恵子(2024). AYA世代の患者とACPについて話し合うために. 特集 がん患者へのACP-やってみてわかったこと. 緩和ケア. Vol.34. 青梅社

# CLOSE UP NEWS

クローズアップニュース

## 長狭高校「医療コース」体験発表会

12月3日(水)、ホライゾンホールにて、千葉県立長狭高等学校(山口健一校長)の「医療」分野で学ぶ3年生による医療体験発表会が開催されました。亀田グループでは2015年に長狭高校と教育連携協定を締結し、専門職種による出張授業や職業紹介、シャドー実習を通じて、医療・福祉人材の育成を支援しています。本年度は夏季休業期間中の2日間、20名の生徒が希望する職種の業務を見学・体験するシャドー実習を行いました。

発表会の冒頭では、山口校長より昨年度の進路状況が紹介され、約9割の生徒が大学・専門学校へ進学し、そのうち約4分の1が医療系の進路を選択していることが報告されました。

発表会では、代表生徒10名が看護師、臨床検査技師、救急救命士、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師など、多様な職種での研修を通じて得た学びを発表しました。生徒からは、「安心感や信頼関係を築くためにはダブルチェックが重要」「コミュニケーションでは言葉遣いや伝え方が大切」「語彙力を高める



ために幅広い年代と話し、普段から会話の構成を意識したい」「日常生活でも優先順位を意識して行動したい」「多職種連携や患者・家族への心のケアの重要性を学んだ」「心に理想の看護師像を持ち、目指していきたい」など、今後の目標につながる前向きな感想が述べられました。

受け入れ側のスタッフからも、「この経験を糧に目標に向かって頑張してほしい」「数年後には一緒に働きたい」「発表内容も年々素晴らしくなっている」「困った時はいつでも相談に来てほしい」といった励ましの言葉が贈られました。最後に、生徒代表から臨床現場スタッフへの感謝の言葉が述べられ、発表会は和やかな雰囲気の中で締めくくられました。

## 二十歳の集いで門出を祝う

1月8日(木)午後、ホライゾンホールにて「二十歳の集い」が開催されました。2005年4月2日から2006年4月1日生まれの対象者16名のうち、外国出身者(ミャンマー出身4名、ベトナム出身2名)を含む14名が出席しました。

2022年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたことに伴い、当院では毎年1月に実施していた院内成人式を、2024年より「二十歳の集い」という名称に変更しました。

当日は、亀田俊明病院院長をはじめ、植田健一副院長、和泉竜也人事部長が出席し、出席者の二十歳の門出を祝いました。

亀田俊明病院院長からは、「これまで皆さんを育ててくれた家族や周囲の方々への感謝を忘れず、社会人として責任を持ち、さまざまなことに挑戦してほしい。仕事に一生懸命取り組むことは大切ですが、人生を楽しむことも忘れないでください。仲間とのつながりを広げ、互いに学び合いながら成長していきましょう。



皆さんの活躍を心から期待しています」との言葉が贈られました。続いて植田副院長からは、「医療の世界は今、目まぐるしく変化しています。年齢を重ねると保守的になりがちですが、皆さんは若い力と柔軟な発想を持っています。ぜひ新しいアイデアを発信してください。私たちも協力しますので、一緒に変化を楽しみながら前進していきましょう」と励ましのメッセージがありました。

出席者からは、「二十歳としての自覚を持ち、医療従事者としての責任を今一度見直し、地域社会や病院全体の役に立てるよう努力していきたい」「同年代の仲間が少ない職場なので、新鮮で貴重な機会だった」といった声が寄せられました。ミャンマー出身の参加者からは、「一日でも早く仕事を覚え、正確で丁寧な対応ができるようになりたい。将来は介護福祉士を目指している」との抱負が語られました。ベトナム出身の参加者は、「二十歳になり、自立への第一歩を踏み出したと感じている。夢に向かって努力していきたい」と前向きな感想が聞かれました。

## 脳死下臓器提供、厚生労働省より感謝状



2025年10月、脳死下臓器提供に関する長年の取り組みが評価され、厚生労働省より感謝状を拝受しました。

脳死下での臓器提供は、ご本人およびご家族の意思に寄り添いながら、医学的判断や法的手続きを進めるとともに、集中治療科、主治医、看護師、検査部門、事務部門などが連携し、院内コーディネーターを中心に、県移植コーディネーターや日本臓器移植ネットワークと協力しながら、家族支援から院内調整、判定体制

の構築、摘出手術後の対応に至るまで、継続的に体制整備を行ってきました。難しい判断や調整が求められる場面もありましたが、患者さまとご家族に真摯に向き合ってきた取り組みが、今回の評価につながったものと考えられます。

院内コーディネーターを務める診療支援課の横澤清香さんは、「臓器移植は、提供者の想いとご家族の決断という命のバトン、次の命へと確実につなぐ医療です。今回の感謝状は、特定の部署や個人の功績ではなく、日々現場を支えている多職種の連携と、当院全体でその想いを大切にしながら取り組んできた結果であり、当院全体の医療の質とチーム力が評価されたものだ」と受け止めています」と話しました。

## 師長会で防犯研修を実施

12月18日(木)、師長会にて、警察官をかたり捜査などの名目で金銭をだまし取る「ニセ警察詐欺」に関する防犯研修が行われました。保管理課・磯野恒明課長の声かけをきっかけに実現したもので、鴨川警察署生活安全課の藤野一樹課長が来院し、主な手口や詐欺の見分け方について説明しました。

警察官をかたる電話詐欺は、孫や子どもを名乗って金銭をだまし取る、いわゆる「オレオレ詐欺」とは異なり、SNSなどを利用して接触する点が特徴で、若い世代を含む幅広い年齢層で被害が報告されています。研修では、警察官をかたる人物がLINEなどのSNSのビデオ通話を用い、偽造した逮捕状や警察手帳を見せ、「捜査のために資金を確認する」と称して送金を求める手口が紹介されました。

藤野課長は、「警察がSNSを使って連絡することはあ

りません。また、警察手帳や逮捕状などの画像を送ることや、金銭を要求することも一切ありません」と強調し、このような連絡があった場合は、すぐに電話を切るよう説明がありました。また、詐欺電話の多くで国際電話番号が使用され、着信画面の電話番号の前に「+」マークが表示されることが多い点にも触れ、「電話に出る前に番号を確認すること」の重要性を呼びかけました。固定電話については、「国際電話不取扱受付センター」に連絡することで、国際電話の発信を停止する手続きが無料でできることも紹介されました。

最後に藤野課長は、「このような詐欺に関する相談件数は増加しています。師長の皆様には、現場に戻ってから職員への注意喚起をお願いしたい」と述べ、研修を締めくくりました。



## 池田正一先生が第77回保健文化賞を受賞



歯科センターの池田正一歯科医師が、第77回保健文化賞を受賞されました。保健文化賞は、保健・医療・福祉の分野で長年にわたり社会に貢献してきた団体・個人に対し、感謝と敬意を表することを目的に1950年に創設された賞で、本年度で77回目を迎えます。

池田歯科医師は、障がいのある子どもへの歯科医療を学術的に確立するとともに、地域における障害者歯科の連携体制づくりを推進してきました。さらに、血友病やHIV感染症、先天性無痛無汗症などの難病のある患者さまに対しても、歯科・口腔のケアを実践し、誰もが安心して受診できる歯科医療の向上に尽力してきました。こうした取り組みが評価され、今回の受賞に至りました。

### 池田先生からのメッセージ

この度多くの方々のご推薦を頂き、第77回保健文化賞を受賞いたしました。厚生労働大臣による贈呈式の後、皇居・御所の大広間にて天皇・皇后両陛下の拝謁の栄に浴し、受賞理由をご説明申し上げたあとお言葉を賜りました。

わが国の障害児者に対する歯科医療は国際的にも評価が高く、特に台湾、韓国との交流も盛んで、日本が指導的な役割を担っています。私は日本障害者歯科学会の発起人で、60年から始めた本会も5,200人を超える学会に発展しています。

障害児者、血友病、HIV感染者、先天性無痛無汗症など難病に対する歯科医療がますます発展するよう願うのみです。

今回の受賞は、日頃から多くの方のご指導、ご支援があったからこそで、私個人ではなく、皆さんの代表として私が受けたとの思いで感無量です。



### 冬季防災訓練を実施

12月6日(土)午後、火災を想定した冬季防災訓練が実施されました。多職種が参加し、災害時に必要となる行動手順や連携体制を確認しました。総合訓練は、B棟3階を出火階とする設定で行われ、火災感知器の作動から火元確認、通報、初期消火、排煙装置や防火扉の操作、模擬患者に扮した職員の搬送・避難誘導までを一連の流れとして実践しました。小児病棟と精神病棟が同一フロアにあることから、防災本部や自衛消防隊と連携し、火災発生時の状況把握や初期対応の方法、ならびに屋外避難先への避難経路についても再確認しました。続いて、消火器および消火栓の操作訓練も実施されました。今回は、海外出身の職員の参加も多く、放水の勢いに驚く場面も見られましたが、分かりやすく丁寧な指導が行われ、防災への意識を高める訓練となりました。



### 呼吸器内科中島啓主任部長の本が刊行されました

2025年12月、中島主任部長による著書『臨床医のためのライフハック「診療・研究・教育」がガラッと変わる時間術』が刊行されました。本書は刊行直後から注目を集め、Amazonの該当カテゴリーで1位を記録するなど、大きな反響を呼んでいます。本書は、診療に加え、研究、教育、学会活動など多くの役割を担う臨床医が、限られた時間の中でどのように仕事と向き合い、成長していくかをテーマとしてまとめた一冊です。中島主任部長の実体験を軸に、分野を問わない多様な書籍も紹介しながら、

時間の使い方や働き方の工夫を解説しています。中島主任部長は「日本のすべての医師、特に医学生・研修医・若手医師に読んでほしいと思い、全力で執筆しました。最も大切にしたのは、ビジョンを持つことの重要性や、新しい時代におけるキャリアの描き方です。一般書に近い内容で、医師以外の方にも役立つ部分があると考えています。生成AIの活用なども盛り込み、時代の流れを意識した内容としています。参考にしていただけるとうれいです」とコメントを寄せています。



### 災害時学生協カプログラムを開催 —学生が災害時に「できること」を学ぶ—

12月20日(土)、ホライゾンホールにて、医療学生を対象とした「災害時学生協カプログラム」研修が開催されました。本研修には、亀田医療大学および亀田医療技術専門学校の学生12名が参加しました。災害時学生協カプログラムは、災害発生時に医療学生が病院の災害対応を支援する立場として、どのような協力ができるのかを学ぶ取り組みです。医療系以外の学生に限らず、災害時の支援に関心のある学生を対象としています。当日は、亀田総合病院DMAT隊員および千葉県内のDMAT隊員が講師を務め、災害発生時の医療体制や病院の初期対応についての講義が行われました。続いて、多数の傷病者が同時に発生した状況を想定し、限られた医療資材を有効活用するために、重症度や緊急性に応じて治療や搬送の優先順位を判断する「トリアージ」の考え方について学びました。症例

をもとにしたカードトリアージに加え、DMAT隊員の指導のもとで実践演習も行われました。さらに、災害時における情報整理や伝達の重要性についても学び、次々と伝えられる情報を書き出す体験を通して、情報管理の難しさを実感しました。現役DMAT隊員を前に、はじめは緊張気味だった学生たちも、研修が進むにつれて徐々に打ち解け、質問をしたり意見を交わしたりする姿が見られました。参加した学生からは、「災害時に医療者を支える立場として何ができるのか具体的にイメージできた」「将来的にDMAT隊員になりたいという思いが強まった」といった声が聞かれました。



## 2025年度 患者さま満足度調査結果

### ■ 調査概要

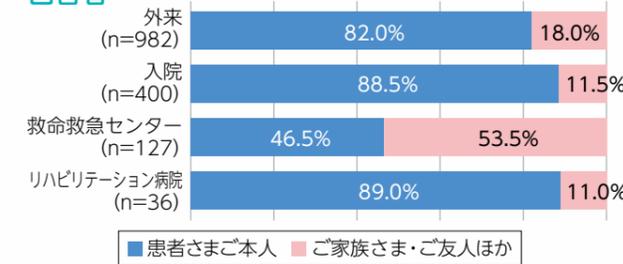
**調査期間:** 亀田クリニック(外来) 2025年11月1日~11月30日(計24日間)  
 亀田総合病院(入院) 2025年11月1日~11月30日(計30日間)  
 亀田総合病院(救急) 2025年11月1日~11月10日(計10日間)  
 亀田リハビリテーション病院 2025年11月1日~11月30日(計30日間)

**対象施設:** 亀田クリニック、亀田総合病院(入院、救急)、亀田リハビリテーション病院

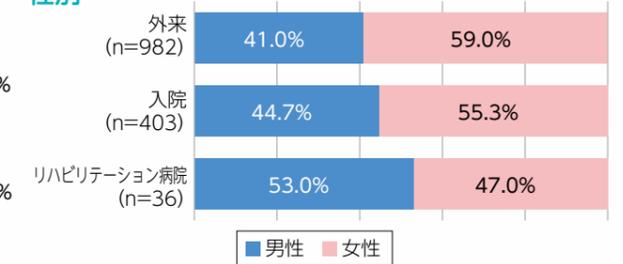
**調査形式:** 紙媒体の調査票を用いたアンケート。回答者が院内の回収ボックスに投函し、アンケートを回収。WEBアンケート。

**回収結果:** 外来936(93.6%)・WEBアンケート85件、入院428(53.9%)・WEBアンケート87件、救急127(49%)・WEBアンケート25件、リハビリテーション病院36(69%)であった。

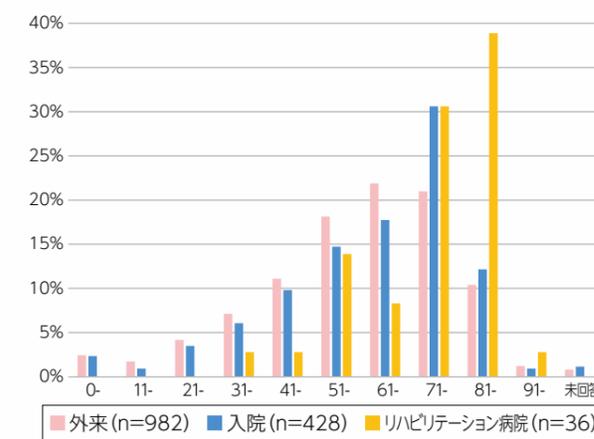
### 回答者



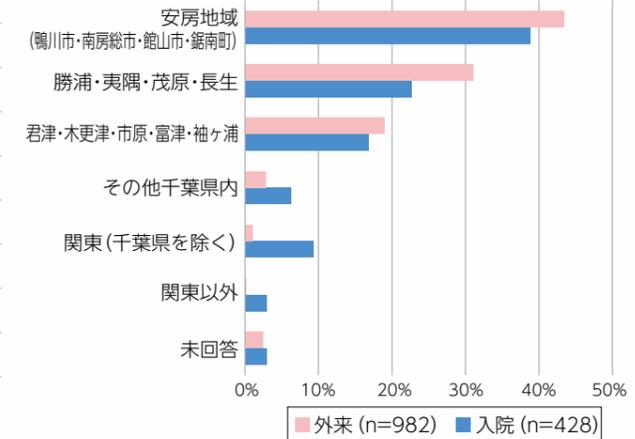
### 性別



### 年齢



### 住まい



### ■ 施設別満足度

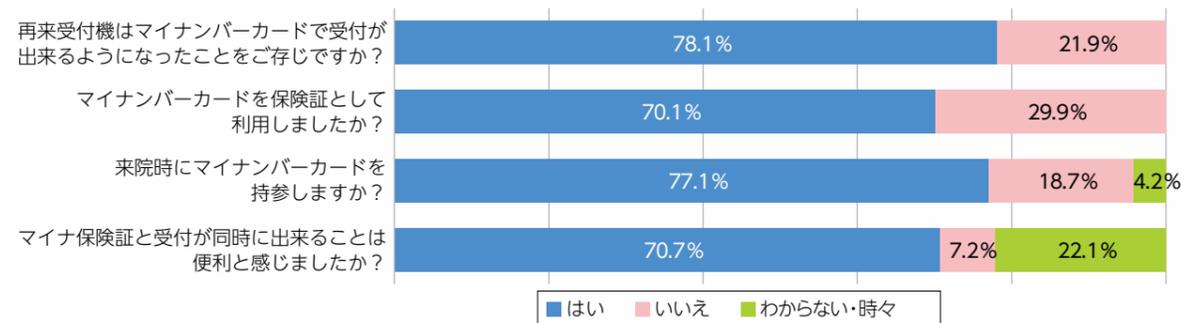
#### 施設別満足度



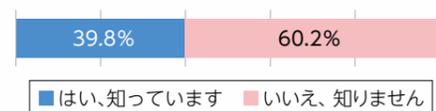
※構成比率は小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります

## ■ 外来

### マイナンバーカードについて (n=982)



### 医療費支払いが遅れても、お薬の受取時間に影響がないことはご存じですか？ (n=982)

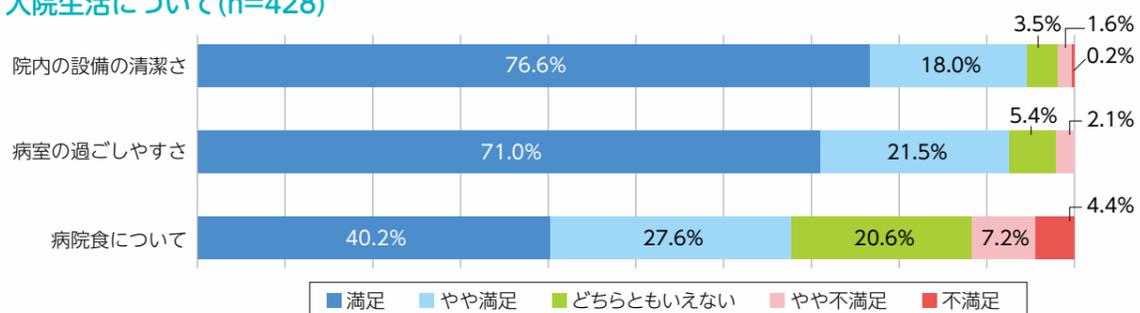


### ★アンケート自由記入欄のご意見より (多い意見を一部抜粋)

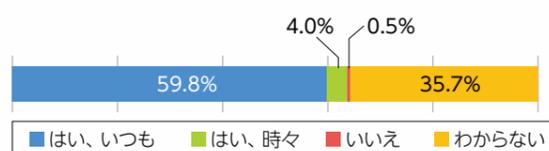
- ・全体的に待ち時間が長い。待ち時間の説明、表示をしてほしい。
- ・スタッフみなさん親切で安心して受診できます。
- ・予約料、駐車料金が高すぎる。
- ・マイナンバーで受付ができるようになりスムーズに受付ができた。

## ■ 入院

### 入院生活について(n=428)



### 病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をしていましたか？ (n=428)



### 病院職員はあなたに医療行為をするにあたり、お名前以外にも(生年月日、診察券番号)など確認しましたか？ (n=428)

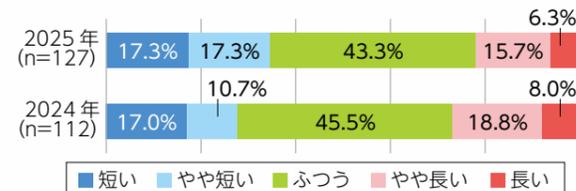


### ★入院に関するコメント(原文のまま)

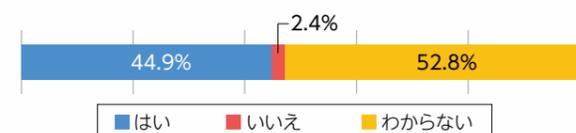
- ・対応してくれた方が皆優しかった。もし、また入院する事になった時、またここがいいなと思えた。
- ・毎回、入院時は快適に過ごさせています。
- ・初めて入院生活をしましたが、入院手続きから退院まで問題なく過ごささせていただきました。毎日入れ替わりでしたが、どの看護師さんも親切丁寧に接していただき、手術前の不安も和らぎました。病院食も毎日おいしくいただきました。
- ・看護師さんがとても親切で優しく接してくれました。理学療法でリハビリをいつも明るく楽しく運動をリードしてくれ、毎回楽しく取り組むことが出来ました。担当の先生もいつも気にかけて、毎日顔を見せてくれ、安心させてくれました。
- ・香水？柔軟剤？整髪料？の匂いのきついスタッフさん達はちょっと残念。化学的な匂いがとても苦手な人には。
- ・食事が選べるのを楽しみにしていました。廃止になったのが残念です。復活して欲しいです。

## ■ 救命救急センター

### 診察の待ち時間について



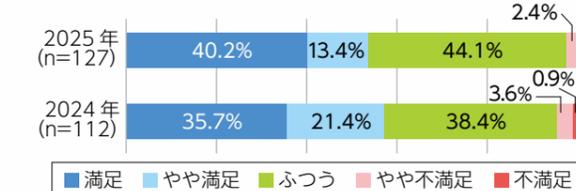
### 病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をしていましたか？ (n=127)



### ★救命救急センターに関するコメント(原文のまま)

- ・今回に限らず、急なケガや発熱、感染症など、いままでも時間帯問わず深夜であっても診察をしていただき本当に感謝しています。
- ・葉がある時に時間が長いことがあります。
- ・ドクターのとてわかりやすい、診断・説明を受けて、とても安心出来ましたし、今後の対応(自分が取るべき判断)がしやすいなと思われました。どうもありがとうございました！

### 清掃について

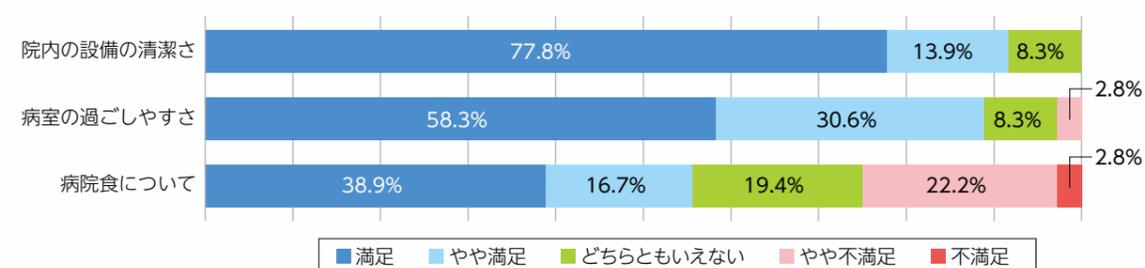


### 病院職員はあなたに医療行為をするにあたり、お名前以外にも(生年月日、診察券番号)など確認しましたか？ (n=127)

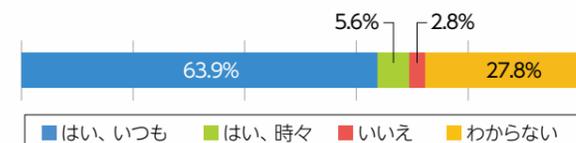


## ■ 亀田リハビリテーション病院

### 入院生活について(n=36)



### 病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をしていましたか？ (n=36)



### 病院職員はあなたに医療行為をするにあたり、お名前以外にも(生年月日、診察券番号)など確認しましたか？ (n=36)



### ★亀田リハビリテーション病院に関するコメント(原文のまま)

- ・もう少し、優しく対応してほしい。
- ・洗面台の水の勢いが強い。
- ・皆様親切で、訴えやすく、感謝しかありません。ありがとうございました。
- ・日曜日にも面会時間を設けてほしいです。

今回のアンケート結果を院内各部署にフィードバックし、今後、多職種による委員会での改善活動に取り組んでまいります。お気づきの点がございましたら、引き続きご意見をいただければ幸いです。



# 病院は誰かの仕事でできている



たくさんあって  
やこしいわ...



## のぼり NOBORI と ポケさぼ

いつものこのコーナーは、いろいろな部署で働く人たちを紹介していますが、今回は外来受診や入院準備をもっと快適にするスマートフォンアプリなどが主役です。すでに患者さまにお使いいただいている医療情報管理アプリ「NOBORI」と、入院準備を支援するコミュニケーションシステム「ポケさぼ」の2つは、患者さまの受診を快適にすることはもちろん、来院から退院までの流れを通して患者さまをしっかりと支えるデジタル PFM\*の考え方に基づいています。

\*PFM(Patient Flow Management)：入院患者情報を入院前に把握し、問題解決に向けて早期に着手すると同時に、退院後までをサポートすることを目的としたシステム。

外来受診をもっと便利に	アプリの種類	入院までの準備を支える
<p>スマートフォンに入れて使うアプリです</p> <p>ふだんの外来通院のときに使います</p> <p>ご自分で、スマートフォンのアプリストアから入れます</p> <p>→ 検査や健診の結果を見る → お薬の情報を確認する → 診察の予約確認や、WEB予約(*)をする → 医療費を後払する</p> <p>→ 院内の滞在時間を短縮 → 検査結果や健診結果をいつでも確認</p>	<p>LINE(ライン)を使ってやりとりします</p> <p>入院が決まってから、退院するまで使います</p> <p>入院支援相談窓口で案内されたQRコードを読み取ります</p> <p>→ 入院前に必要な説明動画を見る → 入院の準備に必要な情報がLINEで届く → 待ち時間などを利用して問診入力できる</p> <p>→ 入院の準備を家でゆっくり確認できます → 何度も問診を記入する手間がなくなります</p>	
<p>→ 検査や健診の結果を見る</p> <p>→ お薬の情報を確認する</p> <p>→ 診察の予約確認や、WEB予約(*)をする</p> <p>→ 医療費を後払する</p>	<p>始める方</p> <p>できること</p> <p>ここが便利!!</p>	

\*現在診療科が限られています

### コラム：亀田が目指すデジタル PFMとは？

PFM(Patient Flow Management)とは、患者さまの受診から入院、退院後までの流れを見通し、必要な支援を切れ目なくつなぐ考え方です。

亀田総合病院が進めるデジタル PFM は、その流れをデジタルで整理し、患者さまと職員、双方の負担を減らす取り組みです。

目指しているのは、デジタルで人を置き換えることではありません。説明や確認、書類作成など、仕組みで可

る部分は任せ、医療従事者が患者さまやご家族さまと向き合う時間を確保すること。そのため、すべてを一つのアプリにまとめるのではなく、使う場面や役割に応じてツールを分けています。必要な情報を、必要なタイミングで届けることで、診療の質と効率の両立を図っています。

今回ご紹介するNOBORIとポケさぼは、このデジタル PFM の考え方に基いて運用されています。

### 入院までの準備を支える



- ポケさぼに登録したとき
  - 入院生活のしおり
- 入院1週間前
  - 手術について(動画)
- 入院3日前
  - 持ち物や必要書類の確認
- 入院当日
  - 受付方法や受付開始時間
  - 駐車場のご案内



### 必要な情報を必要な時に

入院日にあわせて必要な情報が届きます。大事な情報は動画でも確認することができます。

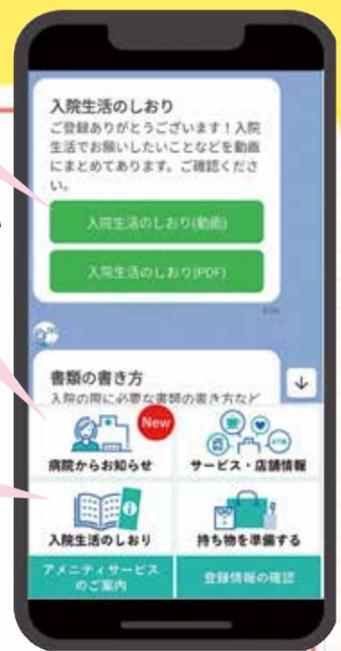


### 病院からお知らせを受け取る

病院からの大切なお知らせは「New」のマークで表示され、確認済みかどうか一目で分かります。

### 大切な情報は何度でも

情報はお手持ちのスマホから何度でもご確認いただけます。音声付きの動画もあり、より分かりやすくなっています。



### よくある質問

- Q スマホを持っていないのですが…
 

A. ご家族様にかわりに登録いただくほか、タブレットをご利用いただけます。
- Q 機械が苦手なので使えるか心配です
 

A. 入院支援相談窓口で導入までのサポートをいたします。操作でご不明な点があればお気軽にお声がけください。

### 入院支援相談窓口



入院が決まったらまずはここに。入院に必要な準備や入院生活の案内のほか、看護師による生活状況の確認、入院に関する疑問や相談対応などを行っています。

### スマホで問診

これまで直接ご記入いただいていた問診票もスマホで入力できます。いただいた情報は関係部署で共有され、何度も同じことをお尋ねすることがなくなりました。



### 外来受診をもっと便利に



- 医療費後払い
  - 通院履歴・予約情報管理
  - 待合の番号表示
  - 健診結果の確認
- \*機能の一部です



NOBORIの詳しい使い方はこちら



まずはここから NOBORIの後払い機能は、「設定」→「医療費後払い設定」から登録いただけます。\*クレジットカードが必要です。

医療費後払いをご利用の際は、受付窓口にお申し出ください。\*画面の提示をお願いしています。スマホをご用意ください。

### もっと便利に

医療費領収書・明細書を簡単に保存&印刷!

医療費後払いサービスをご利用いただくと、当院を受診した際の領収証や明細書のデジタル保存や印刷が簡単にできます。

\*マイナンバーカード連携で一元管理も可能です。



# 亀田総合病院報

No. 290

亀田ホームページ <https://www.kameda.com>

2026年3月1日発行 (隔月発行) 発行責任者：亀田隆明 編集：広報企画室

発行：医療法人鉄蕉会 〒296-8602 千葉県鴨川市栗町1929

当広報誌は個人情報保護のもと本人の了承を得て作成しており、本用途以外の転用は固くお断りしております。

All articles on this PR magazine has been printed under the permission of the subscriber to protect their personal information.  
All editorial content and graphics may not be copied without the permission of Kameda Medical Center, Public Relations which reserves all rights.

